

「奇跡のピアノ」の前で共演する
森山さん(左)とさださん(右)12日午
後、榎葉町コミュニティセンター



七回忌 復興願う歌声

榎葉 森山良子、さだまさしさん

東日本大震災の犠牲者を悼み、震災と東京電力福島第1原発事故からの復興を願う「福島まほろば塾inならは」は12日、榎葉町コミュニティセンターで開かれた。被災地に心を寄せる歌手森山良子さん、シンガー・ソングライターさだまさしさんが共演。心に染み入るような2人の澄んだ歌声に乗せ、いわき市で津波被災から修復を遂げた「奇跡のピアノ」が奏でられ、地震被害が復旧された会場を「再生の響き」で包み込んだ。【2面に関連記事】

で念願の初開催となった。避難指示解除から1年半が過ぎ、双葉郡復興の最前線復帰を進める榎葉町の歩みを後押ししようと、福島民友新聞社と薬師寺まほろば塾が主催。森山さんは

奈良薬師寺執事の菅徹氏と親交が深く、さださんと共に出演を快諾した。県内外から約800人が訪れ、大谷氏の法話や森山さん、さださんとの鼎談に聞き入った。七回忌追悼・

復興祈願法要も営まれ、参加者が犠牲者の鎮魂を祈り古里を取り戻すために前を向く力を分かち合った。法相宗大本山薬師寺、読売新聞東京本社福島支局、福島中央テレビの後援。

本社×薬師寺まほろば塾



大谷氏 法話要旨

幸、不幸は心の使い方

人は心の使い方によって、誰かによって、振り回される。幸と不幸は、心の使い方次第で変わる。大谷氏は「自覚」をキーワードに、人生の転機をどう捉えるか、どう生きるかを説いた。幸と不幸は、心の使い方次第で変わる。大谷氏は「自覚」をキーワードに、人生の転機をどう捉えるか、どう生きるかを説いた。

森山さん鼎談要旨



人の強さを知った

震災の時に心が動揺した。被災地に歌を歌いに行き、歌を歌うことで、心が強くなった。森山さんは、被災地での経験を語り、人の強さを知った。

さださん鼎談要旨



音楽が元気の源に

震災が起きて、音楽家は、指揮者の佐藤裕さんが立ち上げた。音楽が元気の源に。さださんは、震災後の経験を語り、音楽が元気の源に。



榎葉でまほろば塾

榎葉町コミュニティセンターで12日開かれた「福島まほろば塾inならは」では、奈良薬師寺執事の菅徹氏が法話で、3人は古里復興へ前を向く。幸せな人生について説いた。大谷氏の法話を聴いた。大谷氏の法話を聴いた。

榎葉の子どもにも楽器を

福島民友新聞社と薬師寺まほろば塾、榎葉北の両小、榎葉南の両小の計4校に、楽器を贈る。子どもにも楽器を。義援金100万円。

イベント号外発行

福島民友新聞社は、「福島まほろば塾inならは」開催を記念し、聴講者向けにイベント号外を発行した。イベント号外では、まほろばの由来などを掲載したほか、榎葉中、榎葉南の計3校が、榎葉町で4月から授業を再開することも紹介した。

夢の共演堪能 演奏に「奇跡のピアノ」

榎葉町復興祭の一環で、森山さんとシンガー・ソングライターさだまさしさんが共演。夢の共演堪能。演奏に「奇跡のピアノ」。

谷徹氏が松本幸英町長に「おめでとう」と囁いた。